



# みんなの回生



- 新年のご挨拶 理事長・病院長・副院長兼看護部長 ……………2～3
- はじめまして …………… 3
- 冬に多い病気とその予防法…………… 4
- 『頭切らないとだめですか?』 …………… 5
- 筋肉のつっぱりでお悩みの方へ …………… 6～7
- 坂出市防災訓練に参加してきました …………… 8

● 医事課より患者さまへお知らせ

平成28年1月より、毎月初めの受診日には、総合受付窓口にて保険証、現住所、ご連絡先等の確認をさせていただくことといたしました。また、保険証等変更があればその都度お申し出て下さいますようお願いいたします。

### 回生病院理念

皆さまに愛され信頼される病院を目指します

### 回生病院基本方針

- 一、私たちは質の高い医療を提供します
- 一、私たちは保健・医療・福祉と連携を図ります
- 一、私たちは予防医療の充実に努めます

### 患者さまの権利と責務

- 一、患者さまには、最善で公平な医療を受ける権利があります
- 一、患者さまには、医療内容について十分な説明と情報を受ける権利があります
- 一、患者さまには、医療行為について選択・同意・拒否する権利があります
- 一、患者さまには、個人情報保護される権利があります
- 一、患者さまには、自らの健康に関する情報を提供する責務があります
- 一、患者さまには、病院の規則を守る責務があります

題字揮毫  
元県知事・前川忠夫

2018年1月  
286号





## 新年のご挨拶

理事長 松浦 一平

新年明けましておめでとうございます。旧年中は格別のご厚情を賜り、誠にありがとうございました。

2017年も国内外であらゆる出来事が起こりましたが、トランプ氏の米大統領就任からはじまり、北朝鮮や森友・加計問題、さらには自民党圧勝で決着がついた衆議院選挙など、大変印象深いものばかりでした。なかでも北朝鮮問題は深刻になりつつありますが、トランプ大統領が安易に武力行使に進むことのないように願うばかりです。国内では人口減少・超高齢社会という現実に向き合うために税と社会保障の一体改革は、安倍総理が2度にわたり消費税率10%への引き上げを先送りしたことで頓挫しました。2年毎に診療報酬改定が行われますが、今年は6年に一度の医療と介護報酬の同時改定の年です。政府は毎年のように社会保障費の削減を検討しているようですが、消費税の先送りにより、今年の改定がどのような結果になるのかはわかりませんが、多くの医療機関や介護施設の経営に影響を及ぼすであろうと推測されます。

回生病院が開設され60年が経過しましたが、これまで病院周辺の皆様をはじめ多くの方々のご支援により今まで地域の中核病院としての役割を担うことができました。今後も安全で質の高い医療を多くの皆様に提供できるように、職員一同これまで以上に努力精進してまいります。本年も何卒よろしくお願い申し上げます。



## 新年のご挨拶

病院長 杵川 文彦

新年明けましておめでとうございます。昨年中、当院に賜りました数々のご支援に対しまして、職員一同心より御礼申し上げます。

さて、平成も早30年となりました。調べてみますとこれは昭和(64年)、明治(45年)、応永(35年)に次ぐ過去4位の長さのようで、光陰矢の如しということが痛感させられます。今年は戌年です。犬に関することわざを思い起こすと、負け犬の遠吠え、羊頭狗肉、犬も歩けば棒に当たる、犬に論語等、あまり良くないことに使われているものが多い様です。実際には最近では構造改革の名の下に医療費が抑制され、各医療機関を取り巻く環境は厳しいものとなっております。しかし、悪いことばかりを考えているわけにはまいりません。当院の日指すべき目標は変わらず、基本方針の一つである「私たちは質の高い医療を提供します」を達成することです。そのためには、ハード面、ソフト面ともさらに充実させていく必要があります。その一環としての当院の取り組みをいくつかご紹介いたします。

昨年は脳梗塞に対する新しい治療を導入し、良い成績が得られています。これは脳血管内治療という、カテーテルを用いた治療で、本年はさらに検査機器の改良に取り組む予定です。我が国の得意分野の一つに内視鏡検査があります。今まで当院では鎮静下での内視鏡検査は積極的に行っていませんでしたが、これからは希望のある方に対しては鎮静を積極的にを行い、内視鏡検査時の苦痛軽減を目指していきたいと考えています。画像のきれいな最新型の内視鏡機器も導入する予定です。電子カルテも能率よく診療が行えるように最新のものに変更するよう鋭意検討中です。診療を支えてくれるコメディカルの適切な配置にも配慮したいと考えています。近年話題になることの多い南海トラフ地震についても「想定外」とすることなく、災害拠点病院としての機能を維持すべく訓練を繰り返しています。ここに記載していない分野においても昨年に引き続き「私たちは質の高い医療を提供します」の基本方針のもと診療を継続してまいります。

本年も昨年同様ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。また、私自身昨年4月に病院長に就任してからまだ間もなく、十分な対応ができていない点につきましては何卒ご寛恕賜り、併せてご支援のほどよろしくお願ひ申し上げます。年頭にあたり、皆様のご健勝とご発展を祈念いたしまして、新年のご挨拶とさせていただきます。





**新年あけましておめでとうございます。**  
副院長兼看護部長 池内 真理子

新年明けましておめでとうございます。皆さまにとって、新しい年が良い年となりますように心よりお祈り申し上げます。

少子超高齢社会の進展の中で、2025年を見据えた社会保障制度改革の動きが進んでおり、在宅医療・介護の推進、医師・看護師等の医療従事者の確保・勤務環境の改善、地域包括ケアシステム等が推進されています。

2018年この4月には、6年に一度の診療報酬・介護報酬の同時改定が予定されており、国は「同時改定は、2025年までに大きく舵を切る事ができる実質的に最後の機会」としています。2018年は報酬改定のみならず、新たな医療計画、介護保険事業計画、医療費適正化計画、都道府県による国保の財政管理が一齐に動き出すときです。

日本看護協会では、このような動きを視野に入れつつ、地域の中での看護提供体制の拡充に資する改定にしたいと考え再考する機会と捉えています。療養の場によって情報の優先度が違うので、次のケア提供者にとって必要な情報を見極めて提供する必要があると思います。そのためには、職場を超えた看護のネットワークを構築し、患者さん・利用者さんにとってそれぞれの療養の場で期待される看護を認識し役割の違いを理解しどのような情報提供が必要なのか話し合うことが必要です。

看護職は行政、医療機関、介護保険施設、介護サービス事業所等々、地域の中ではさまざまなところで働いています。ネットワークを構築し、他職種を巻き込み地域包括ケアシステムに参画しつつ、構築のキーパーソンとなり、ケアの実質的コーディネーターを担っていくことが求められます。

所属組織の役割を基本に捉えつつ、地域の医療・看護・介護提供体制の構築に貢献できる仕組みづくり、その仕組みに参加・協力できる体制づくり、専門性の高い看護師の地域での活用等、看護職が自組織の看護人材から所在地域の看護人材へと繋げ、看護提供のクオリティを上げていくことで地域の医療支援をする病院、看護部組織としていきたいと考えています。

2017年看護部は、アンガーマネジメントについて発信しました。アンガーマネジメント（心理トレーニング）は自身のあらゆる感情と上手に付き合い、周りとの良好な人間関係を成立させて前向きな気持ちになれる方法です。医療職として接遇・倫理等の面でも自分メッセージ（Iメッセージ）自分を主語にして伝えてみる、それがすべて患者さんの視点に繋がってきます。2018年度は研修を計画していきたいと考えています。

病院理念の「皆さまに愛され信頼される病院」、看護部理念「信頼していただける最良の看護を提供します」、常にこの理念、原点にもどり看護部一致団結で2018年度も全力を注ぎ前進していきたいと考えております。本年も皆さまの温かいご支援とご指導を何卒よろしくお願い申し上げます。



**はじめまして**  
眼科 宮本 龍郎

この度回生病院眼科に勤務となった宮本龍郎（みやもと たつろう）と申します。山口県宇部市出身で、平成13年に徳島大学医学部を卒業し徳島大学眼科に入局しました。その後大学院へ進学した後、徳島赤十字病院、徳島県立三好病院での勤務を経て平成21年徳島大学病院へ復職し、角結膜・ドライアイ疾患をメインに診療してまいりました。

座右の銘は「日々感謝」で「フットワークを軽く」を合言葉に、中讃地域の皆様に信頼してもらえるような眼科医を目指し奮闘していきます。趣味は野球観戦で、広島東洋カープの熱狂的ファンです。でもジャイアンツファンの皆様、タイガースファンの皆様、どうか仲良くしてください。これからもご指導・ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。



# 冬に多い病気とその予防法

消化器内科 渡邊 精四郎

## 1) ウイルスや細菌による疾患

冬は私達の体の免疫や代謝の低下のために、低温・低湿度を好む風邪やウイルス「インフルエンザ、アデノ、ノロ、ロタ」による嘔吐・下痢症や、鼻汁・鼻づまり・喉の痛み等の風邪症状から頑固な咳を伴うRS(respiratory syncytial)ウイルス感染や、水ぼうそう、おたふく風邪などが増える傾向があります。部屋を20～25℃に温め、湿度を60～80%にするとウイルスの生存率がかなり低下します。また、A型肝炎や、マイコプラズマ肺炎、寒いと血行障害が原因で痔なども増えてきます。

ノロウイルス対策には次亜塩素酸ナトリウムによる消毒やアルコールでの二度拭き、加熱処理が有効です。水分補給には紅茶を取り入れると予防になるという報告があります。インフルエンザにはワクチン接種が有効ですが、効果が出るまで2週間余りかかります。肺炎球菌による呼吸器感染にもワクチン接種が有効です。慢性疾患を持っている人や65歳以上の高齢者や手術で脾摘出を受けた人は肺炎球菌ワクチンを受けておきましょう。小児に多く高熱で舌がイチゴ状になった場合は溶連菌による化膿性扁桃炎を疑う必要があります。大人にも発生し、急性糸球体腎炎やリウマチ熱の原因にもなります。

感染症予防には、人ごみでのマスク着用、こまめな手洗い、喉に違和感があったときは頻回に水道水でうがいをしたりするのが有効です。水分の多いスープ類や鍋物を摂るのもよいでしょう。咳の飛沫は1～2mは飛び散るので、咳エチケットも大切です(咳やくしゃみをする時にはティッシュ等で鼻と口を覆い、使用後のティッシュはできるだけすぐにゴミ箱に棄てる。間に合わなければ手の平ではなく腕の内側や袖で鼻と口を覆う様にして手の平に付いたウイルスを広げない)。



## 2) 命に関わる冬に多い疾患

寒さや温度差で狭心症・心筋梗塞・脳出血・脳梗塞も発生しやすくなります。入浴する湯温は40℃以下が適当です(42℃以上では40mmHg以上血圧が上がります)。温度差が小さいほど血圧上昇が少ないので脱衣所を温めたり、入浴前にシャワーの湯で浴室を温めたりするとよいでしょう。

高齢者では餅やミートボール等を喉に詰まらせる窒息、脱水、誤嚥性肺炎、転倒による骨折などに注意を要します。

感染症や心疾患、脳卒中などを予防するためには、緑黄色野菜・海藻・納豆・魚を加えた塩分控えめのバランスの良い食事を摂り、運動習慣や休養でリフレッシュすることやストレスを溜めないことも大切です。





## 『頭切らないとだめですか？』

脳神経外科 岡本 薫学

脳神経外科手術と聞くと、頭を切って開かれる、後遺症が残る、症状がよくなる、頭蓋骨を外すのは怖いなどのイメージが強いのではないかと思います。また、医療関係者の方でも脳神経外科ではどんな治療をしているのかあまり詳しくない方も多いです。近年、脳血管内治療（カテーテル治療）の発展により、『頭を切らない治療』が可能となってきました。

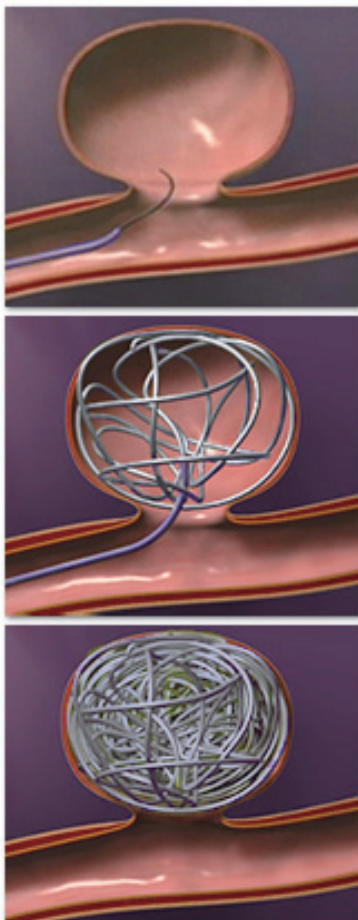
脳血管内治療は、脳血管障害（脳梗塞、クモ膜下出血など）を中心として、血管奇形や脳腫瘍、鎖骨下動脈狭窄症などの疾患も治療の対象となります。

今回は脳血管障害の中からクモ膜下出血についてご紹介します。クモ膜下出血は発症すると3人に1人が死亡してしまう重篤な病気です。一命を取り留めても手足の麻痺や言語障害等の後遺症に苦しんでいる患者さんはたくさんいらっしゃいます。重篤な後遺症を残された場合には寝たきりの状態となってしまいます。

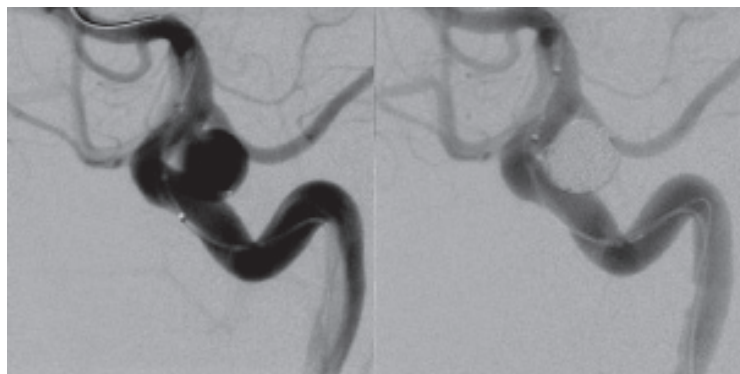
クモ膜下出血の最も多い原因は、脳動脈瘤の破裂です。風船のように血管が膨らみ破裂してしまいます。脳動脈瘤は、大きさ、部位、形により破裂率は様々ですが、一般的に年間破裂率は約0.2～3.0%と報告されています。最近では画像診断が進歩したことにより脳ドック等で脳動脈瘤を早期発見できるようになりました。

脳動脈瘤の治療法には、開頭手術と血管内治療の2通りがあります。開頭手術とは、皮膚を切開し頭蓋骨を外す手術となります。一方、血管内治療は足の付け根からカテーテルを用いて行います。そのため、皮膚を切開したり頭蓋骨を外したりすることなく治療を行うことが可能となります。しかし、いずれの治療法にも利点と欠点があります。また、治療に伴う重篤な合併症もありますので、主治医と十分相談していただきますようお願いいたします。

参考ホームページ；脳動脈瘤治療のいま  
(<http://www.brainaneurysm.jp>)



脳動脈瘤が破裂しないよう、カテーテルでコイルを詰めます。



治療前

治療後

## 筋肉のつっぱりでお悩みの方へ

リハビリテーション部 作業療法士 藤本 弾

### このような症状にお困りではありませんか？



**手足の筋肉のつっぱりでお困りの方は、  
医師にご相談ください。**

#### 痙縮 (けいしゆく)



- 筋肉が緊張しすぎてしまう状態で、手足がこわばったり、つっぱったりします。
- 片まひと同じ側の手足にあらわれることがほとんどです。

脳卒中でよくみられる運動障害の一つに痙縮という症状があります。

痙縮では、手指が握ったままとなり開こうとしても開きにくい、肘が曲がる、足先が足の裏側のほうに曲がってしまうなどの症状がみられます。

痙縮による姿勢異常が長く続くと、筋肉が固まって関節の運動が制限され（これを拘縮といいます）、日常生活に支障が生じてしまいます。また、痙縮がリハビリテーションの障害となることもあるので、痙縮に対する治療が必要となります。

## 当院ではボツリヌス療法を行っています

### ボツリヌス療法



- つっぱたり、こわばっている筋肉に、直接お薬を注射します。
- 注射した筋肉のつっぱりやこわばりをやわらげます。

ボツリヌス療法とは、ボツリヌス菌が作り出す天然のたんぱく質（ボツリヌストキシン）を有効成分とする薬を筋肉内に直接注射する治療法です。

ボツリヌストキシンには、筋肉を緊張させている神経の動きを抑える作用があります。そのためボツリヌストキシンを注射すると、筋肉の緊張をやわらげることができるのです。

ボツリヌス菌そのものを注射するわけではないので、ボツリヌス菌に感染する危険性はありません。

## ボツリヌス療法に期待できること

手足の筋肉がやわらかくなり、動かしやすくなることで、日常生活動作（ADL）が行いやすくなるのが期待できます。ご興味のある方はまずは、主治医にご相談ください。

介護の負担が軽くなります



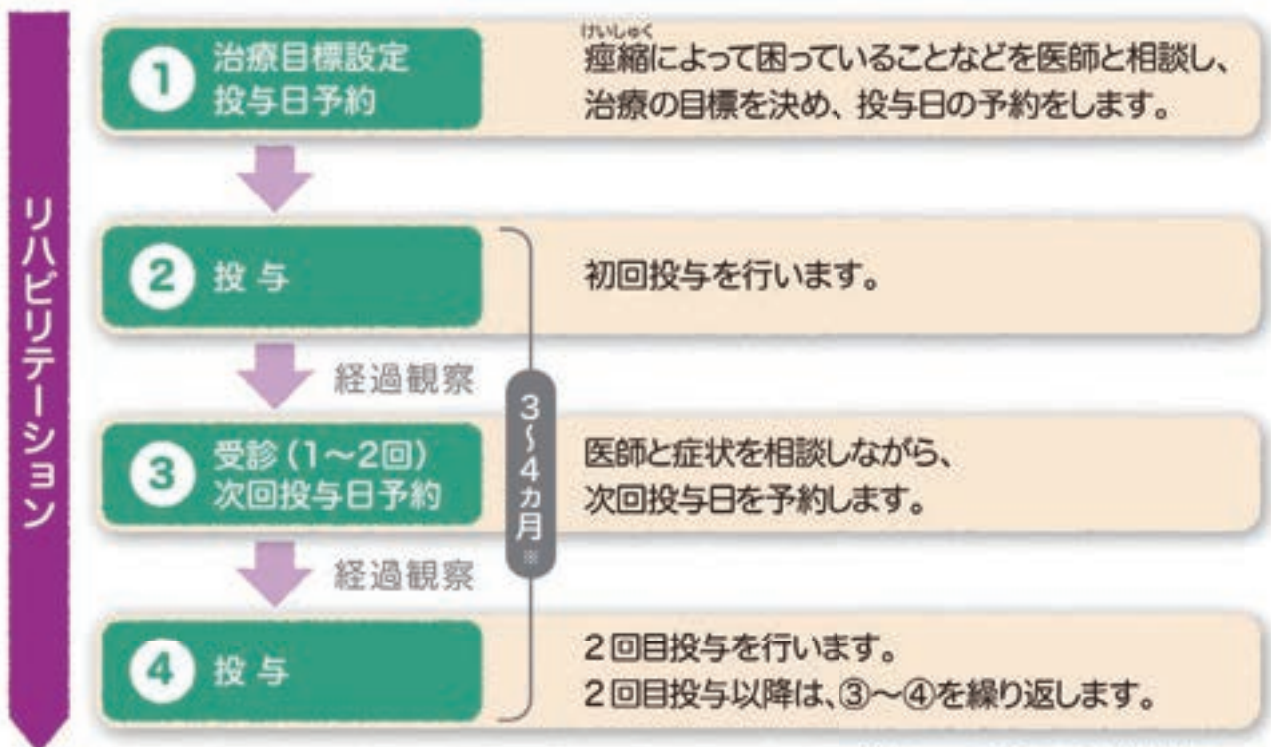
関節が固まって動きにくかったり、変形するのを防ぎます



リハビリテーションがしやすくなります



### ● 治療スケジュール例



※次の投与までの期間には個人差があります。

痙縮について情報を知りたい方は…





## 坂出市防災訓練に参加してきました

DMAT 委員会 高木 孝太

平成29年11月12日（日）に坂出市防災訓練が、松山小学校運動場で開催されました。坂出市からの協力要請を受け、当院 DMAT も看護師2名・ロジスティック2名が参加いたしました。

依頼を受けた活動内容は、市民に対する DMAT についての説明とトリアージの実演です。

この実演では、市民3名の方に傷病者役となって頂き、START 法トリアージを行いました。その際、写真右上の様な図を見せながらトリアージについての解説を行いました。

市民の方からは、災害時には自分より重篤な患者が居たら、そちらを優先的に診察・治療して欲しいとのご意見を頂いたり、DMAT にできる限り協力しますとのご意見を頂きました。

